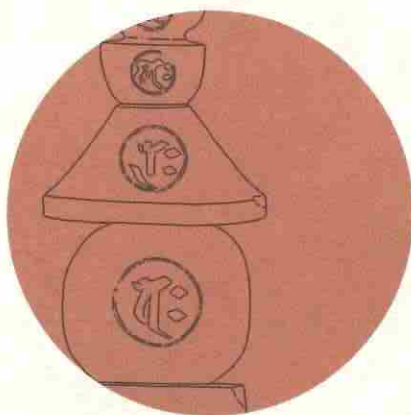
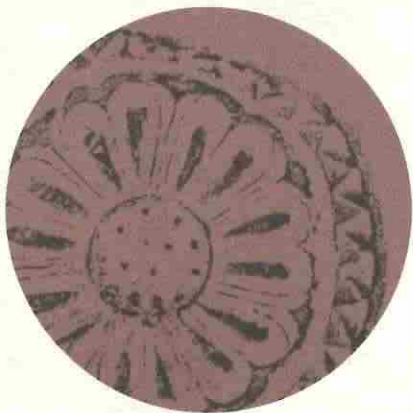
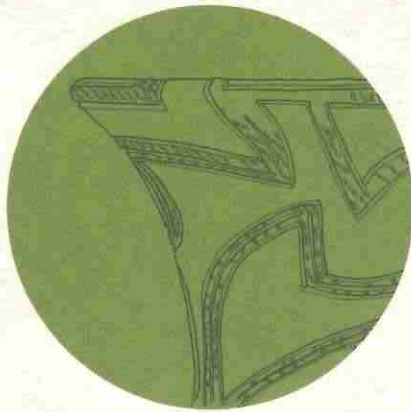
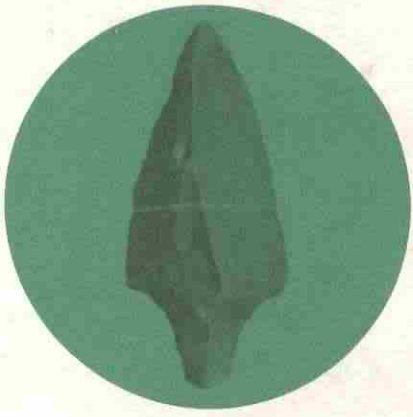


遺物が語る

大分の歴史

THE HISTORY OF OITA
REVEALED BY ARCHAEOLOGICAL ARTIFACTS



目次

3 はじめに

7 1章 旧石器時代

- 8 石斧 偽石器
- 9 ナウマンゾウの門歯 コラム1 環境と食糧
- 10 台形様石器と石斧 角錐状石器
- 11 有茎剥片尖頭器 角錐状石器
- 12 細石刃 細石刃核
- 13 未成品と製品 コラム2 石器の製作
- 14 接合資料と剥片 礫群
- 15 台石 コケン形石製品
- 16 コラム3 旧石器時代の地層

17 2章 縄文時代

- 18 草創期の多彩な土器 石鏃
- 19 草創期の石槍 姫島産黒曜石石核
- 20 サヌカイト石核 石匙とスクレイパー
- 21 石錐 石錘
- 22 磨製石斧 石皿
- 23 網袋 コラム4 山の恵み
- 24 磨石と敲石 トロトロ石器
- 25 環状石斧 十字形石器
- 26 異形石器 御物石器
- 27 土偶 玦状耳飾と勾玉・管玉・丸玉
- 28 小型装身具類 埋甕
- 29 楕円押型文土器 深鉢
- 30 鉢 擬似縄文を施した深鉢
- 31 コラム5 縄文土器の出現とその移り変わり
- 32 注口土器 浅鉢
- 33 深鉢 扁平打製石斧
- 34 貝殻と獣骨 コラム6 海の恵み

35 3章 弥生時代

- 36 刻目突帯文土器甕 壺
- 37 下城式土器甕と壺 高坏
- 38 甕 壺
- 39 甕と鉢と器台 ブタ?の頭蓋骨
- 40 炭化米と堅果類 コラム7 鉄器の生産
- 41 太形蛤刃石斧と木製柄 平鍬と諸手鍬
- 42 柱状片刃石斧 石包丁 火切り臼
- 43 竪杵 石剣の鞘
- 44 粗製甕 安国寺式土器
- 45 磨製石鏃と磨石と石皿 コラム8 クニの成立
- 46 丹塗磨研甕 瓢形土器
- 47 長頸壺 長頸壺
- 48 注口土器 筒形器台
- 49 コラム9 大分県内で出土する青銅器
- 50 鏡片 小型仿製鏡
- 51 朝鮮式小銅鐸 銅剣
- 52 銅矛 巴形銅器

53 4章 古墳時代

- 54 三角縁神獸鏡 神人車馬画像鏡
- 55 珠文鏡 コラム10 前方後円墳の出現と展開
- 56 手焙形土器 小型丸底壺
- 57 二重口縁壺 壺形埴輪
- 58 円筒埴輪 家形埴輪
- 59 鳥舟付器台 高坏形器台
- 60 コラム11 横穴墓の世界
- 61 脚付壺 甕
- 62 甕 甕
- 63 毀損痕をもつ坏 鉄鐸

Contents

- | | | | | | |
|----|-----------|--------------|----|------|---------|
| 64 | 貝の器 | 轡 | 65 | 鏡板 | 杏葉 |
| 66 | 辻金具 | 雲珠 | 67 | 矢筒金具 | 耳環 |
| 68 | 玉類 | 銅釧 | 69 | 甕 | 甌 |
| 70 | 絵画土器 | コラム12 須恵器の生産 | 71 | 蓋坏 | 蓋坏 |
| 72 | 蓋坏 | ガラス小玉 | 73 | 須恵器坏 | 垂飾り 腕飾り |
| 74 | 鉄剣と鹿角製剣装具 | 石枕 | | | |

75 5章 飛鳥・奈良・平安時代

- | | | | | | |
|----|-----------|-------|----|----------------|--------------|
| 76 | 虚空蔵寺の瓦 | 弥勒寺の瓦 | 77 | 豊後国分寺の瓦 | コラム13 大伽藍の出現 |
| 78 | 博仏 | 蔵骨器 | 79 | 蔵骨器 | 炭化米 |
| 80 | 木簡と斎串 | | 81 | コラム14 役所と役人の登場 | |
| 82 | 権 | 石帯(袴) | 83 | 円面硯 | 和同開珎 |
| 84 | 墨書土器 | 緑釉陶器蓋 | 85 | 越州窯青磁碗 | 胞衣壺 |
| 86 | 唾壺と無文隅入方鏡 | 蛸壺 | 87 | 製鉄遺物 | コラム15 古代の製鉄 |
| 88 | 陶器経筒 | 銅製経筒 | | | |

89 6章 鎌倉・室町・安土桃山時代

- | | | | | | |
|-----|---------------|----------|-----|------------------|---------|
| 90 | 土師質土器燭台 | 常滑焼甕 | 91 | 土師質土器 | 瓦器碗 |
| 92 | 磁竈窯黄釉鉄絵盤 | 土師質土器 | 93 | コラム16 石造物が語る中世社会 | |
| 94 | 佐知遺跡17号遺構出土遺物 | | 95 | 青磁碗と白磁皿 | 瓦 |
| 96 | 青磁碗と皿 | 東国東型瓦器碗 | 97 | 楠葉型瓦器碗 | 和泉型瓦器碗 |
| 98 | 土師質土器 | 備前焼すり鉢 | 99 | 墨書のある瓦器碗 | 小仏像 |
| 100 | コラム17 戦国期の城と館 | | 101 | 青花 | 朝鮮産陶器 |
| 102 | タイ産四耳壺 | 天目碗 青磁香炉 | 103 | 土師質土器灯明皿 | 土師質土器燭台 |
| 104 | 下駄 | 櫛 | 105 | さし銭 | 犬形土製品 |
| 106 | 硯 | 水滴 | | | |

107 7章 江戸時代

- | | | | | | |
|-----|-----------------|---------------|-----|----------------|---------------|
| 108 | 軒平瓦と軒丸瓦 | 門金具と環状金具 | 109 | コラム18 織豊系城郭の展開 | |
| 110 | 「丸に釘抜」文鬼瓦 | 溶着した陶磁器 | | | |
| 111 | 谷の町屋の出土品 | コラム19 城下町の暮らし | | | |
| 112 | 蔵骨器(火消壺) | 蔵骨器(蛸壺) | 113 | 錫杖 | コラム20 近世墓地の展開 |
| 114 | 唐津焼大甕 | | | | |
| 115 | コラム21 江戸時代の焼きもの | | | | |

1章

旧石器時代

石器はアフリカ大陸で、約260万年前に初めて作られました。日本列島では、約4万年前からヒトが住み始めた痕跡が各地に残されています。そこから、縄文時代の始まる1万6千年前までを旧石器時代と呼んでいます。この時代は気温の低下した氷河期で、北海道は大陸と陸続きとなり、九州は唯一対馬海峡西水道で大陸と隔てられた時代です。この時代人々は、石器や骨角器・木器を用い、遊動しながら堅果類の採取や狩猟を行っていたと考えられます。

約280万年前	東アフリカにホモ属(ヒト)が現れる	
約20万年前	アフリカに現世人類ホモ・サビエンスが現れる	
約90,000年前		阿蘇山が噴火し、県内の広い範囲に火砕流が押し寄せ
約60,000年前	ホモ・サビエンスがアフリカを出て移動を開始する	九重第1降下軽石が九重～豊後大野市に降下
約50,000年前	アジアにホモ・サビエンスが現れる	
約40,000年前	日本の各地で、ヒトが生活を開始	豊後大野市 ^{おれんこし} 牟礼越遺跡
約35,000年前	台形様石器やナイフ形石器などの槍のほかに石斧 ^{いわきり} が使われた	豊後大野市 ^{ももた} 百枝遺跡
約32,000年前		大分県の広い範囲で遺跡が形成されはじめる 豊後大野市 ^{こまがた} 駒方遺跡 C 地区
約30,000年前	鹿児島湾北部 ^{あいら} で始良カルデラが噴火し、日本の広範囲に火山灰を降下させる	
約17,000年前	細石刃を装着した槍が使用される	豊後大野市宮尾原遺跡



1-1 石斧

丹生遺跡 大分市 約16,000年前

丹生遺跡からは、片側に礫面を残し、片側の面だけを加工した細長い石斧が大量に出土している。ほかに石の縁を少し打ち欠いた礫器と呼ばれる素朴な石器も見つかっている。1962(昭和37)年に丹生遺跡でこれらの石器が発見された際には、加工と形態がアジアやアフリカの古い石器に共通すると考えられ、約30万~60万年前の石器として大きく報道された。しかし、石器の出土した地層が海成層や表面採集であったことから、多くの賛同を得るに至らなかった。現在では、丹生遺跡の石斧は縄文時代草創期初頭の石斧で、遺跡はその生産地と考えられている。



1-2 偽石器

早水台遺跡 日出町

1965(昭和40)年、別府湾の北岸にある日出町の早水台遺跡で石英粗面岩や石英脈岩を加工した「石器」が出土し、北京原人の石器と共通していると考えられた。その年代は、遺跡のある台地が関東の下末吉段丘と同時期であることから約13万年前のものと考えられた。しかし現在では、加工した痕跡の把握が困難なことから、同様な石材が地域の広い範囲に分布することから、石器である可能性は低いと考える研究者が大半である。また、同じ層から姫島産角閃石安山岩を石材とする確実な石器も出土しているが、上層にある縄文時代の包含層と分布が重なっていることから、上層のものが混入した可能性が考えられている。

1-3 ナウマンゾウの門歯(牙)

代ノ原遺跡 豊後大野市 60,000~90,000年前

1981(昭和56)年、農道工事のため、豊後大野市大野町代ノ原の台地が掘削され、ナウマンゾウの化石骨が発見された。1982年と1983年に同地で行われた岡山大学の発掘調査でもナウマンゾウの化石骨が出土し、農道工事で見つかった化石骨と合わせて1頭分の遺骸であることが確認された。

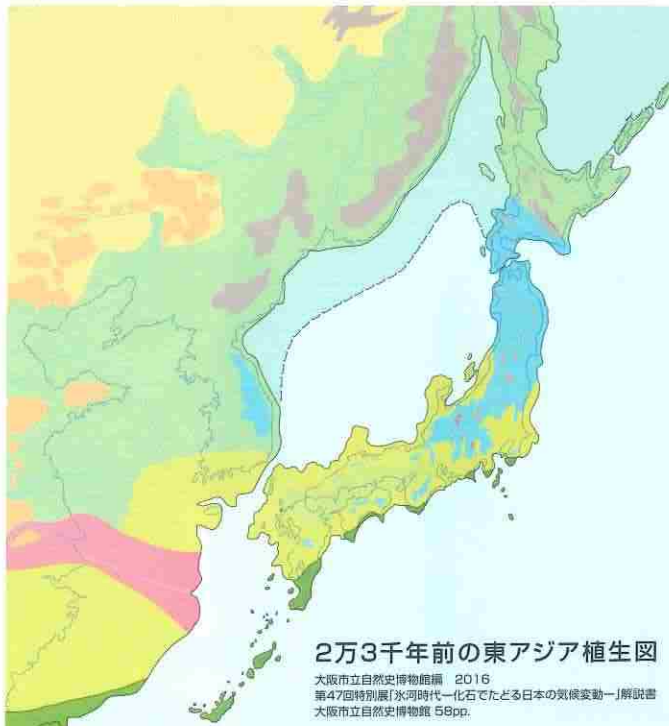
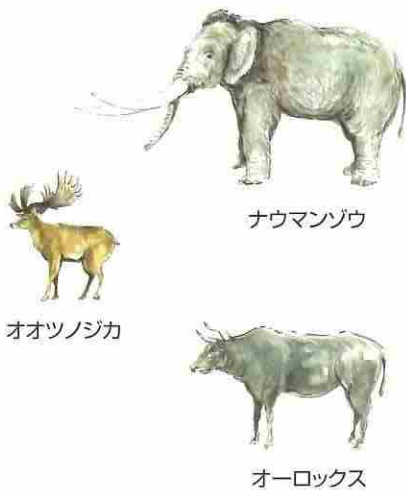
ナウマンゾウは、約40万年前から約2万年前頃まで日本列島に生息しており、旧石器時代の重要な食糧の一つだったと考えられている。ただし、このナウマンゾウの年代は約6~9万年前と推定され、この時代には日本列島に人類はまだ到達していなかった。



コラム1 旧石器時代の環境と食糧

旧石器時代は寒冷な氷河期にあたり、大分県は冷温帯落葉広葉樹林と針葉樹林の混交林が広がっていました。

この環境の中で、人々は落葉低木のハシバミや針葉樹のカヤの実、チョウセンゴヨウ(松)の実などを採取し、ナウマンゾウやオオツノジカ、オーロックスなどの大型獣やイノシシなどを狩って、食糧としていたと考えられます。



- | | | |
|-----------------|-------------------------|------|
| イネ科とヨモギの草原 | 湿性草地および河岸林 | 裸地 |
| 乾燥したまばらな草地および砂漠 | 針葉樹の混ざる冷温帯落葉広葉樹林(ブナを伴う) | 氷河 |
| 針葉樹の散在する草原 | ブナのない落葉樹と針葉樹の混交林 | 結氷限界 |
| 寒温帯針葉樹林 | シイやカシ、クスノキ類などが混ざる照葉樹林 | |